「こんにちは！知事です」（令和３年７月１９日（月）八戸市立豊崎中学校）　概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、八戸市立豊崎中学校での実施概要をお知らせします。

生徒会の皆さんから学校紹介をしていただくとともに、代表生徒４名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校生徒２７名）

（司会生徒）

将来の夢は青森県知事になることです。

僕は青森県に隣組のような仕組みを復活させたいです。隣組とは昭和初期にあった町内会のような仕組みのことです。相互に見守り付き合うことで地域の団結力がより深いものになります。近年では核家族化が進み、誰にも頼れず、相談できずに、子どもを虐待してしまう親や孤独死してしまうお年寄りが問題となっています。お互いをよく知り親密になることで、寂しく苦しい思いをしている青森の人たちを、少しでも救えたらと思っています。困った時はお互い様、この考え方は豊崎中にも脈々と生きている考え方です。

今日は活発な話し合いにできるよう、精一杯努めますのでよろしくお願いします。

（知事）

青森県では、人口減少により若い世代が減ってきています。そこで、地域で子どもやお年寄りの面倒をみるなど、地域経営体を強くし、青森県型地域共生社会として地域ごとに支え合っていこうという仕組みを整えているところです。

（総合販売戦略課）

県では、農家が農作物を育てて販売することを進めていくだけではなく、例えば、お年寄りのような買い物に行くのが難しい方に、産地直売施設の方がお弁当を届けるなどの取組も進めています。

（発言生徒１、３年男子）

僕は今、なりたいと思える職業はありません。ない、というより、まだ分からないと言った方がいいかもしれません。趣味は釣り、バレーボール、山登りなどです。今、自分が大好きだと思えることを全力で楽しんでいます。将来、本当にやりたいと思える職業にめぐり合った時に、今、僕が夢中でやっていることがつながっていけたらいいなと思っています。

知事に質問です。青森県は「短命県」ということが残念ながら有名です。青森県にはおいしい食べ物が多いのに、早く死んでしまうなんてちょっと悲しいです。僕たちが生徒総会でその対策について話し合ったところ、「カップラーメンよりも美味しく、手軽に食べられる食品を開発する」、「ジムなどを増やして健康促進を図る」、「自殺者を減らすために相談施設を増やす」などの意見が出されました。また、弘前大学の医学生たちが立ち上げた「医カフェ」も素晴らしい取組だと思っています。

青森県が短命県返上のためにこれまでに行った取組は様々あると思いますが、数値として効果があった取組は何ですか。

（知事）

青森県の場合、全国と比べて４０代や５０代の比較的早い時期に亡くなる人が多いことが問題です。

短命県返上についても、県をあげて健康づくりに取り組んできて、成果が上がったところもあります。

発言の中で、カップラーメンに関する提案がありましたが、青森県ではおいしいからと、汁まで飲んでしまう人がいて、塩分の摂りすぎといった問題があります。それよりもおいしいものということで、県内の企業で開発しているところもあるようなので期待しています。

（がん・生活習慣病対策課）

青森県は平均寿命について全国最下位がずっと続いている状態です。死亡原因を見てみると、約３割はがん、あと心疾患・脳血管疾患となっています。この３つの病気は３大生活習慣病と言われていて、生活習慣や運動習慣が原因となっています。年代別で見ると４０代、５０代の皆さんのお父さんやお母さんくらいの方々の死亡率が高いことが課題となっています。このような方々を減らすために、運動や食事がすごく重要になると考えています。

そこで県では、従業員の方々が健康で仕事ができるように、健康づくりに力を入れている事業所を「青森県健康経営事業所」と呼んで認定をしています。このような会社では食堂でバランスのよい食事を出したり、ジムの利用券を出したり、工夫して運動や生活習慣の改善に取り組んでいます。

野菜の摂取量は増加していますが、少し足りないので、皆さんも給食の野菜、頑張って食べていただければと思います。運動の方も、歩数もだんだん上がってきていますが、現時点では男性６，３０９歩、女性５，３６５歩ですので、目標の男性８，５００歩、女性８，０００歩に向けて、あと１日１，０００歩、大体１０分くらい増やしてもらいたいということで、活動をしています。

何より健康に興味を持ってもらうということが大事だと思うので、これからも自分の健康に興味を持っていただきたいです。

（知事）

糖尿病や高血圧などの生活習慣病になるとすごく辛いので、そこを減らしていきたいと思っています。

また、自殺対策についても、絶対に誰も死なせないということを目標にやってきました。

（障害福祉課）

大切な人の自殺を防ぐには、その人が抱える様々な悩みを聞いて解決することが重要とされています。県では、悩みを抱えた方が相談できる体制を整えるとともに、県内外の様々な相談機関と連携し、相談先を県民の皆さんにお知らせしています。

青森県の自殺者数は平成１５年に５７６人でしたが、昨年は２３８人と半減しました。しかし、人口１０万人に対する自殺死亡率では全国平均を上回っているので、引き続き相談しやすい体制を整えることが必要と考えています。

今年も夏休みと冬休みの期間中に、中学生の皆さんも対象のＳＮＳ相談「ひとりじゃないよ青森県」を実施します。夏休み前にＱＲコードのついたチラシを皆さんにお配りしますので、何か悩みがあったら気軽に相談をしてみてください。

（知事）

何か辛いことがあっても抱え込まずにいろいろ相談をしてほしいと思います。県庁をあげて様々な取組をして、数字的には半分になりましたが、コロナ禍で家に閉じこもったり、運動をしないために動けなくなったりなど、新型コロナウイルス感染症そのものとの闘いだけではなく、コロナ後に心と体の健康を正常に戻すことについても頑張っていきたいと思っています。

（新産業創造課）

新産業創造課では「あおもりヘルシーライフフードプロモーション推進事業」という事業に昨年度まで取り組んでいました。県民の皆さんが健康的な食生活を送ることができるよう、ヘルシーな食品を増やしていこうという取組です。

このヘルシーライフフードの取組では、減塩や糖質オフ、ビタミンＣ強化など、ヘルシー食品の開発を支援してきました。

さらに今年度からは、機能性表示食品といって健康に良いことが研究で明らかになっている成分を配合した商品について、開発を支援しています。県産食材を使った、おいしくてヘルシーな食品がどんどんスーパーやコンビニなどに増えていくことで、手軽に皆さんと、皆さんのご家族の方々が健康的な食事ができると思いますので、これからも県内の企業の皆様と一緒に協力して取り組んでいきたいと考えています。

（知事）

青森県では、食品加工や健康にいい物をつくろうということから始まり、このような事業に結び付いています。

県ではだしの活用で減塩していこうと取り組んでいますが、イギリスなど他の国では社会全体で塩分をひかえる「無意識の減塩」という取組をしていて、国に対してこういった取組を行うことにつ

いて提案しました。その結果、国の栄養成分表示に食塩相当量が記載されることになりました。

（総合販売戦略課）

最後に「だし活＋だす活」の取組について紹介します。県では、県内にたくさんある「だし」素材に注目し、「だし」の力でおいしく減塩する「だし活」の取組を進めてきました。

また、令和元年度からは「だし活」に加えて、県産の野菜をたくさん食べて、野菜に含まれるカリウムという成分の力で体内から余計な塩分を押し出す「だす活」も併せて「だし活＋だす活」としてＰＲしています。

これからは県民全体がもっと手軽に「だし活」を実践できるよう、だし活商品を拡大していくこととしています。普段の買い物の中で、このマークの商品を見つけたら、是非お求めになってください。皆さんも一緒に「だし活＋だす活」に取り組みましょう。

（知事）

「だし活＋だす活」の活動は年間５０カ所ほどやっています。

歌と踊りをしながら県内のスーパーや様々な場でキャンペーンをして歩いています。

この取組によって、今まで１日２５０ｇだった野菜の摂取量が３００ｇと、５０ｇ増えましたが、本当は３５０ｇの野菜を食べなければいけないので、あと５０ｇです。一番簡単なのは、ミニトマトをあと５個食べることです。また、キュウリを半分、タマネギ４分の１、枝豆１掴みのうち、どれか１つでも５０ｇになります。

このように、野菜の数を歌って歩いているのですが、今日はこの「だし活」ダンスを披露します。

（「だし活」ダンス披露）

（知事）

こういった取組により、野菜の摂取が５０ｇ増えた、少し運動が増えたといった成果がありました。

今日は、化学について詳しい職員が来ているので、どうして野菜や果物を食べるとカリウムがナトリウム、塩分を外に出してくれるのかについて話をしてもらいます。

（新産業創造課）

先ほどのお話にもありましたが、カップラーメンは塩分が少し多いです。塩分はナトリウムともいいますが、ナトリウムは生きていく上で必要なものです。ただ、摂り過ぎると脳卒中や心筋梗塞、がんなどの要因となるなど体によくありません。

まずはナトリウムをあまり摂り過ぎないように気を付けて、健康的な食生活を送るというのが大

事ですが、これに加えてトマト、キュウリといった野菜を食べますと、これらの野菜に含まれるカリウムが、体の中のナトリウムを排出します。沢山野菜や果物を摂ることでナトリウムを排出するという「だす活」についても、是非、取り組んでいただきたいと思います。

（知事）

皆さんも野菜や果物をしっかり食べることで、そのカリウムがナトリウムを出し、血圧も安定して健康になります。

将来についてはまだ分からないということですが、今を一生懸命に楽しみ、今できることでいろいろなことを感じ取ってください。将来を期待しています。

（発言生徒２、２年女子）

私の将来の夢は、本の編集者になることです。編集者になり、本を読むことがもっと身近なものになるよう、みんなに文学の素晴らしさを伝えていきたいなと思っています。そのため、本のＰＲの仕方も工夫していきたいと考えています。

知事は、積極的に青森県のＰＲを頑張っていますよね。

青森県の特産品がプリントされたジャケットを東京に着て行ったり、ラップに出演されていたりなどです。私たちは「効果的な青森県のＰＲ」について、解決策を話し合いました。「駅に『映える』スポットやお土産などを増やす」、「せんべい汁缶販売」、「利き酒、利きリンゴコーナー」、「ユーチューバー、マンガ、曲、アニメ、ゲームなどとどんどんコラボしていく」、「『温泉手形』を発行し、銭湯をＰＲする」などのアイデアが出ました。青森県としてこんなＰＲをしたらこんな効果があった、今後こんなＰＲをしていく予定であるなど、教えていただきたいです。

（知事）

将来編集者になりたいとのことですが、様々なことに好奇心を持つこと、ネットだけで検索をするのではなく辞書を引くこと、映画やテレビを見ること、本をたくさん読むことを実践してください。

青森県のＰＲについてはいろいろな取組をしていて、既にやっていることもあります。

（観光企画課）

「りんご」や「せんべい汁」などの県を代表する特産品に、おしゃれな工夫を施したり、発信力のあるユーチューバーや若い人たちに人気のあるマンガなどのコンテンツを活用したアイデアは国内外の人に青森県を知ってもらうためのＰＲ方法として、とても効果的だと思います。

観光企画課には「まるごとあおもり情報発信グループ」という部署があって、青森７名、東京３名の、計１０名で活動をしています。青森チームは、県内各地の観光資源として有望な農林水産物や工芸品、自然、魅力的な人などのネタを、一生懸命県内を回って発掘し、取材をして、ＰＲ資料にまとめています。一方、東京チーム３名は、これらの資料を首都圏のテレビ局や出版社、新聞社などに持ち込んで、是非、青森県を取材してくださいとお願いしています。

また最近では、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなどのＳＮＳで、青森県の魅力的な情報を国内外に発信しています。英語での投稿もしています。これまで、「まるごとあおもり情報発

信グループ」が１７年間ＰＲ活動を行ってきた結果、テレビや雑誌などに取り上げられた件数は、令和３年３月３１日現在で３，２９４件。これらの実績を、広告費に換算すると１，６５７億円となります。

また、作成したＰＲ資料が映画化されたり書籍化されたりするケースもあり、７月２４日に１冊、「まるごとあおもり情報発信グループ」のサポートで書籍化されることになりました。

東京チームは、メディアへのＰＲだけではなく、実際にテレビに出演し、直接視聴者にＰＲを行うこともあります。先日５月１６日にも、全国放送のテレビ番組に出演して、タレントと一緒にいろいろ絡んで楽しくＰＲをしました。

ＳＮＳについては、ツイッター、インスタグラム、フェイスブック、それぞれフォロワーが１万人以上、合わせて５万人以上いて、その業界では一目置かれる、タレント的な存在として、たくさんの人たちに見てもらっています。令和２年度のＳＮＳの総投稿件数は、１年間で５８４件で、延べ４，０００万人以上の人に青森県の情報が届きました。また、フォロワーは、この１年間で１万５千人増えました。

実際の投稿例として、りんごの皮を拡大した画像をもとに、クリエーターに５ｍ越えのりんごの皮マフラーを作ってもらい、発信をしたところ、約６３０万人のツイッター利用者に届き、「いいね」が８万件となりました。この結果、朝の番組やテレビなどのマスメディアにも取り上げられました。

また、星野源さんと新垣結衣さんが結婚発表をした直後の夕方に、何かできないかなということで、南部地方の特産品である干柿（ほしがき）について、星（ほし）とガッキー（がき）を掛け合わせたダジャレのような投稿をしました。こちらも大きな反響になり、青森県をＰＲすることができました。「青森はりんごだけじゃなくて柿も特産だったんですね」等のコメントも沢山寄せられました。

最後に、これから重点的にＰＲしていきたいテーマについては、今月２７日に世界遺産登録予定の「北海道・北東北の縄文遺跡群」や、今年１１月に開館する八戸市美術館をはじめとした、県内の美術館です。今年は八戸市が注目をされる年になります。「まるごとあおもり情報発信グループ」では、皆様のような若い人たちにも興味を持ってもらえるようなネタをどんどん発掘、ＰＲしていきたいと思っております。

今まで私たちは、テレビや雑誌などのマスメディアを使って発信をしていたのですが、最近は、テレビよりユーチューブを見る、ＳＮＳから情報を仕入れる傾向になってきています。しかし、ＳＮＳでバズるとテレビで取り上げてくれますし、テレビで発信をすると、テレビを見ながらＳＮＳもチェックをします。だから両方をうまく取り入れていきたいと思います。

（発言生徒３、３年男子）

僕の夢は花屋になることです。花を買ってくれた人に笑顔になってもらいたいです。僕は青森県が好きです。青森県の自然が素晴らしいと思っているからです。これからも僕は青森県に住みたいと思っています。そして、青森県にしかない植物や自然をもっと日本中に知ってもらいたいと思っています。

知事に質問です。僕のように「青森県で働きたい」、「青森県でずっと暮らしたい」と思えるには、どのような取組をしたらいいと思っていますか。何か青森県で行っていることはありますか。

僕たちが考えたアイデアは「冬の事故防止のため、ロードヒーティングをつける」、「県民は電車、

バス無料」、「青天の霹靂とりんごを全県民に無料配布、インスタで感想を発信」、「観光地や遊ぶ場所を増やす」などでした。先日、県の社会経済白書も新聞で拝見しましたが、県として行っていることを具体的に教えていただきたいです。

（知事）

ありがとうございます。何よりも、青森に残ってくれることがうれしいです。

花は、大きい花もあるけれど小さい花もあって、それぞれが納得のいく花を咲かせようと思うことが大事だと思っています。小さい、大きいではなくて、綺麗な花を咲かせるように生きてください。期待しています。花屋さんになるためにも、しっかりと花の種類なども覚えてください。

県では、県外に出て行く人が多いので、県内にそのままいてもらうことや戻ってきてもらうことに取り組んでいます。

（企画調整課）

青森県の人口は毎年１万５千人ぐらいずつ減っています。人口動態には自然動態と社会動態があるのですが、出て行く人と入って来る人の差し引きである社会動態については、進学や就職によって、１８歳、２０歳、２２歳のところで、特に女性の方が多く出て行っています。そのため、若い人たちが県外に出なくても県内で働けるように、いろいろＰＲしています。今では農業でも新規就農者が増えている状況です。

働くことのほか、暮らしの面でも、青森県にはいいところがあります。例えば、通勤時間の短さがあります。東京では毎日往復で２時間、満員電車に揺られる生活ですが、青森県の通勤時間はその半分くらいです。子育て環境についても、将来子どもを持った時、東京では保育園に入れることも大変です。住宅の面では、青森県は住宅にかかるお金が全国に比べて低いので、東京だと郊外に狭いマンションを買うぐらいのお金があれば、青森県だと立派な広い家を建てられます。給料についても、東京の方が給料が高いというイメージがあるかもしれませんが、例えば３０歳未満の独身者、単身世帯でいうと、東京の方が給料は高いですが、出て行くお金も多いので、差し引きにするとむしろ青森県の方が得だというデータもあります。皆さんには、青森県にもいろいろないいところがあるということに気づいてもらってから、将来の選択をしてほしいと思っています。

（労政・能力開発課）

県では皆さんのような若い人たちに、青森県で働きたいと思ってもらえるよう、県内企業の魅力を積極的にＰＲしています。具体的には、県内の高校で企業ＰＲイベントや、若手社員との座談会を開催しているほか、女子高生に対しては県内企業で働く女性グループ「あおもりなでしこ」が青森県で働く魅力や暮らしやすさをＰＲしています。また、県の公式就活アプリ、「シューカツアオモリ」や、県の就職情報サイト「アオモリジョブ」などを通じて、就職に関する様々な情報を発信しています。今年度は新たに、県外に住んでいる人が「アオモリジョブ」に登録をすると、県産品を贈るキャンペーンを実施する予定であるなど、やっぱり青森県で暮らしたいと思ってもらえるよう、積極的な取組を進めることとしています。

（知事）

今、全国のいろんな大学と連携をして、大学生に戻ってきてもらうためのいろいろな取組をしています。

農業についても、青森県は今とても強くなってきています。知事を１８年間やってきた中で、販売農家１戸当たりの農業産出額、生産農業所得が倍になっています。その結果として３００名近い人たちが青森に帰ってきて農業を始めています。特に新規参入であるＩターンが多く、令和元年度では１０９人の新規参入がありました。加えて、ここ三八地域にもＩｏＴや先端関連産業の企業もどんどん立地しています。

（三八地域県民局）

三村知事が就任以降、青森県にたくさん企業を誘致してきて、ここ八戸市にも大きな企業がたくさんあることを皆さんにも知っていただきたいです。

今日皆さんの将来の夢を伺っていますと、夢の実現には時には県外に出る必要があることもありますが、将来が未定の人もいると思いますので、青森県内にもいろいろな仕事があることを調べていただいて、残ってほしいと思っています。

このような中、三八地域県民局では、「３８ミリョクハッケン伝」という、地元企業を紹介する事業の中で、三八地域の高校生がインターンシップで地元にある企業に行き、良かった点などをまとめて冊子にしました。２年間かけて３８企業を調べたものを出版し、高校１・２年生全員に配布し、ＰＲをしました。

また、三八地域では、県内で製造系が一番集積していますが、女性の就業率が低いという問題があり、昨年度から、女性の学生から見た目線で三八地域の魅力を見直し、情報発信するといった事業に取り組んでいます。

（知事）

仕事を自分で興す人も増えてきていて、年間１００人以上の方が起業しています。

種類もいっぱいあって、トリマーだったり、コーヒーロースターだったりと、いろいろなパターンがあります。そのうちの４割が女性の創業者です。１０年前までは、創業者数は年間７～８件程度でしたが、ほかにも、ダンススタジオ、エステをはじめとして年々増加しています。

（発言生徒４、３年女子）

私は宇宙が好きなので、将来は何かしら宇宙に関係した仕事に就きたいです。今、気になっているのは、アメリカの民間企業である「スペースエックス社」です。そこではロケットの打ち上げにかかってしまう膨大なコストを削減するための様々な取組を行っています。ロケット開発に携わり、太陽系の先には何があるのかを知りたいです。もしかしたら、この地球のような、生き物が暮らしている惑星もあるのかもしれません。たくさん勉強をして、「スペースエックス社」に入れるように頑張ります。

新型コロナウイルス感染症が流行し、私たち学生はたくさんのものを奪われてしまいました。例えば、昨年の春季大会、夏季大会は中止になり、先輩たちは納得がいかないまま引退せねばなりませんでした。私たちは実施できましたが、修学旅行や各行事が中止になったり縮小された学校も多いと聞いています。私たちは、何とか今年の行事を実施できるよう毎日感染対策を行っています。

そこで知事に質問です。青森県としては、どのような対策をし、そのためにどれくらいの費用がか

かっているのでしょうか。今後、どんな対策をお考えでしょうか。ご回答をよろしくお願いいたします。私は、もしも夏季大会がなくなってしまったら、「小規模でも代替え試合を行う」とか、修学旅行がなくなってしまったら「将来使える旅行券やディズニーのチケットを学生にプレゼントする」のはどうかと考えました。一つの提案としてお聞きいただけると嬉しいです。

（知事）

申し訳ありませんが、なかなか旅行券やチケットなどの金品に替えて出すというのは難しいと思います。

今年は中体連、高体連ともに厳しい状況でしたが、開催に向けて教育委員会とともに各学校に協力をお願いしました。

新型コロナウイルス感染症対策全般については、発生したらその周りを抑え込むというシステムを作って、今やっとその効果が現れてきていますが、油断できません。抑え込みができるよう取り組んでいきます。

（学校教育課）

夏季大会や修学旅行についての提案は、中学校生活のかけがえのない貴重な思い出を心に刻むための大変すばらしい提案だと思います。学校行事や部活動の体験は、仲間とよりよい生活を築いていくためにとても大切なものです。宇宙に関係した仕事に就くという大きな夢に向かって、たくさん勉強をしてほしいと思います。

まず、新型コロナウイルス感染症に関連した県の取組について、３つお話をします。

１つ目は、学校が臨時休業になったとき、オンライン学習や教科書を使用した予習ができる資料を作り、それを県内全ての小・中学校に配布しました。もし学校が臨時休業になっても、学校の先生方はこの資料を使うなど、皆さんが勉強を続けられるように準備をしています。

２つ目に、ＩＣＴを活用した家庭での学習支援として、県立高等学校や特別支援学校で機器を整備したり、家庭にスマートフォンを貸し出したりしました。費用としては、およそ５，８００万円かかっています。

３つ目に、県立高等学校や特別支援学校で、県内で実施する修学旅行の経費の一部を支援しました。残念ながら修学旅行を中止した学校もありましたが、１人当たりおよそ４，０００円の支援を受けて、県内で修学旅行を実施した学校もありました。

（スポーツ健康課）

県教育委員会では、新型コロナウイルス感染症予防のために取り組んでほしいことなどをまとめた資料を、学校や市町村教育委員会にお届けしています。学校では、それらの資料に基づいて感染症対策に取り組んでもらっているところです。

これまでにお届けした資料の中の一つに、文部科学省が作成した学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルがあります。

このマニュアルでは、例えば換気については、スーパーコンピュータ「富岳」のシミュレーションから導き出した教室での効果的な換気の方法を紹介しています。寒い季節など窓を全開にできない時には、廊下側と窓側を対角に開けると効率よく換気できることなどが書かれています。

次に手洗いについては、人が無意識に顔に触れる回数を示した上で、感染予防のためには手洗いが必要であることと、効果的なタイミングについてお知らせしています。人は、平均すると１時間に

２３回も顔を触っているそうです。手についたウイルスが目・鼻・口の粘膜を通して体の中に侵入しないように、こまめな手洗いが大切です。マスクを付けることで、触っても口や鼻に手が触れないという効果も期待できます。

また、新型コロナウイルス感染症は、誰でも感染する可能性があることから、感染した人への差別や偏見、いじめや誹謗中傷は絶対あってはならないということも書かれています。ウイルスは目に見えないとても小さなものなので、どんなに気を付けても完全に感染を防ぐことはできません。しかし、換気をすること、人との距離を保つこと、こまめに手を洗うことなどを徹底することで、感染の拡大は防ぐことができます。さらに、感染予防の大きなポイントとして免疫力アップがあげられます。免疫力を高めるためには、十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事が大切です。毎日の生活の中で、ぜひ気を付けてほしいと思います。

これからも県では新型コロナウイルス感染症対策に力を入れていきます。みんなで協力し合いながら、感染の拡大を防いでいきましょう。

（知事）

将来、宇宙に関連した仕事に就きたいとのことですが、物理などが必要になりますので、しっかりと勉強して将来の夢に向かって頑張ってください。

（司会）

最後に全体を通して何か質問はありますか。

（他の生徒）

これまで訪問された小・中学校で出された意見が、実際、県政に生かされているというお話が最初の方にありましたが、その話を具体的に教えていただければと思います。

（広報広聴課）

今回の「こんにちは！知事です」をはじめ、このような場面でいただいた声を参考として事業としたものが数多くあります。年間で大体２事業から３事業、１本の事業あたり２００万～３００万円程度、多いものですと１，０００万円規模の事業もあります。例えば、西北地域の残していきたい食を「めごい飯」として情報発信する事業などがあります。

こうした県民の方から寄せられた意見を参考として、実際に事業化しているものが数多くありますので、いつでも県のホームページの「県政わたしの提案」までいろいろなご意見を寄せていただければと思います。